

「小河内」便り 第28号 平成26年3月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

1月は往ぬる、2月は逃げる、3月は去る、と月日が経つのが早いことを、昔の人はうまく表現したものです。3月は年度末、おかげ様でこの1年間の事業が無事終了しました。ご支援、ご協力いただき、お礼申し上げます。又4月は年度初め、当法人も第4期目に入ります。「住んで良かった、住んでみたい、行ってみたい小河内」を目指して活動しますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

石川県野々市市より来所

富樫氏頌徳会の富樫史料研究会一行（3名）

3月6日、7日 石川県野々市市より富樫氏頌徳会の富樫史料研究会の一行3名（会長、幹事、事務局・教育委員会）が来所、安佐町郷土史会（2名）、当法人の理事と、小河内弥太郎の紙芝居を見たり富樫氏について情報交換を行った。

史料によると16世紀半ば、加賀の国の城主、富樫政親の三男又坐衛門が牛頭山を築城したとあり、小河内に富樫家や墓所、又坐衛門の霊を鎮める蛆腹神社、ゆかりの安楽寺、西福寺がある。7日は牛頭山登山や富樫氏ゆかりの史跡を見て回った。今後同市との交流ができ新たな視点で町興しができることを期待したい。

同市は金沢市に隣接した平野部で小河内（約20㎡）より狭い面積（約13・5㎡）に51000余人が住む若者が多い都市。市勢要覧によると、同市は住みやすさランキング「利便度」と人口増加率が日本一だそうである。



挨拶される富樫史料研究会佐久間会長（中央）
正面向かって左から西本幹事、佐久間会長、永野氏



小河内富樫家墓地

農村体験ツアーリズム、炭焼き体験と交流会

2月15日、農村文化を体験する「炭焼き体験」と参加者との「交流会」を行い、都市住民45人が参加し、田舎の暮らし体験とバーベキューで交流した。参加者の77%が炭焼き体験は初めての経験、猪肉やトン汁等おいしく、楽しい1日だったと、回答した。一方で、実際火をつけることを体験したかった、との意見もあった。



バーベキューで交流会（参加者と談話するスタッフ）

農村体験ツアーリズム、滝山登山と交流会

3月8日（土）小河内の最高峰滝山（692m）登山に都市住民26人が参加、下山後は松田家の旧宅でコーヒーを飲みながら交流、懐かしい水車を見たり、水琴窟の音色を楽しんだ。アンケート回答者25人中、小河内に初めて来た人が12人（48%）、初めて滝山に登った人18人（72%）であった。全員が満足、まあまあ満足、と回答。自然を満喫しながら登山が楽しめた、日ごろの運動不足を感じた等の声もあった。



松田邸で交流する参加者



水車と水琴窟（左）

第4期通常総会

第4期通常総会を下記の通り開催します。会員の方には別途ご案内します。

日時 平成26年6月22日（日）13：30（予定）

場所 小河内集会所2F

木竹炭の活用事例

木竹炭は燃料だけでなく、多孔質から農地の土壌改良や家の湿気の調湿、消臭、有害物質の吸着、防虫・防菌作用の浄化等多くの働きがあり、住宅分野にも活用され近年需要が増えてきているといわれております。

当法人は炭焼き事業を行っており、理事長や理事自ら自宅の台所やリビングの床下にこの木竹炭を敷き詰め、一般に公表されているような効果を確認していますが、湿気を吸収じめじめ感が少なくなった、との感想です。

床下用木竹炭の効果（文章、写真ともインターネットから抜粋）

- 1・木炭は多孔質で吸着・調湿効果に優れている。その効果は恒久的。
- 2・床下の湿気除去、結露防止、白アリ、ダニ、カビ等を予防、夏涼しく、冬暖かい、健康的で快適な環境を作る。
- 3・土台や床下の腐食を防ぎ、家屋の耐久性を向上させる。
- 4・木炭は、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒド・トルエン等、有害物質の吸収・分解に効果を発揮する。

何れその使用方法や留意事項、効果を整理して公表したいと、思っています。

当法人は、本格的な炭焼き窯を二窯所有しており木竹炭を生産、販売していますので、ご希望の方は首記までご連絡下さい。



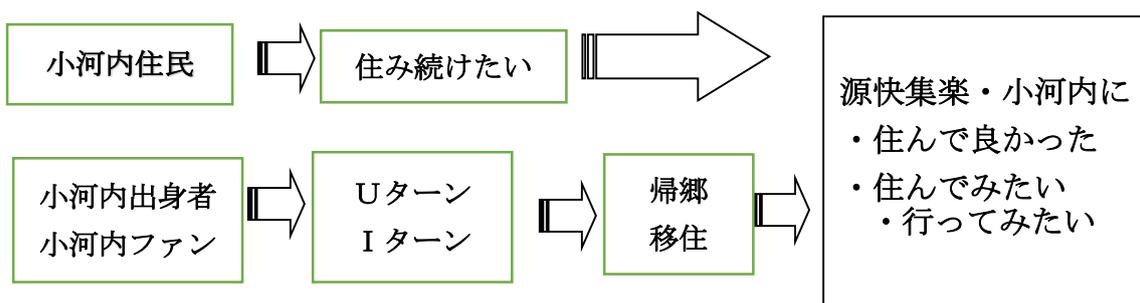
当法人が描く明日の小河内（イメージ）

日本一の元気な田舎「源快集楽・小河内」

—広島市の源の町で快い暮らし、人が集まって楽しい町—

目 標

「住んで良かった、住んでみたい、行ってみたい、小河内」



これを実現するため下記事業を行っています。

1 農村機能維持事業

小河内の豊かな自然と先祖代々からの農業、農地や農村文化を守る事業。

2 生活環境整備事業

働く場と所得、暮らしの安心を守る事業。

小河内の資源を生かした特産品や高付加価値農産物の開発で住民の所得の向上を図り、元気な小河内を目指します。

3 まち・むら交流事業

広島市とヒト、モノ、カネ、情報が循環する仕組み（賑わい創出と農村、都市の交流）農業体験や農村体験ツーリズムに多くの都市住民を受け入れています。

4 情報発信事業

法人の活動や小河内の情報を内外に発信、活性化に繋げたい。

アイデアや良い情報がありましたら、首記までご連絡下さい。

編集後記

140年の伝統を誇る小河内小学校の廃校が1年後になりました。少子化という時代の流れ、といえそうですが、小河内のシンボリック的存在がなくなることに寂しさや釈然としない気持ちがこみ上げてくる。ここは気持ちを切り替えて、ピンチをチャンスに未来志向で小河内の将来に向けて知恵と汗を流したい。

住民アンケートから住民の熱い思いのこもった活用策や広島市教育委員会も親身になって考え応援してくれている。「災い転じて福となす」ように良い活用策プランがまとまり、この校舎が小河内再生のシンボルに生まれ変わることを祈っている。(S)